依頼場面における中国語を母語とする日本語学習者の言いさし表現の使用実態
―日本語母語話者と比較して―

郭（カク）テイ（テイ）テイ（テイ）・関西大学大学院 D1

1. はじめに

日本語学習者の多様化に伴い、「母語話者と同じように話せる」ことを積極的に求めるか否かの意見が分かれるといった向きもみられる。野田(2005)は、誤解を与えない誤用や一生懸命教えても習得されない文法項目はあまり重視しないとしている。一方、日本語を専攻し、日本語の教師や研究者になることを目標としている学習者など、母語話者レベルの正確さを身につけたい学習者の要求も無視できない(高梨 2021)。本研究では、母語話者レベルの正確さや適切さを身につけたいと望む学習者に注目し、日本語母語話者(以下、母語話者)に頻繁に使用されている接続助詞による言いさし表現を研究対象とし、考察を行う。

母語話者は日常会話においてしばしば「ちょっとご相談がありまして」、「今の電車に忘れ物をしてしまったんですが」などの言いさし表現を使うことがある。母語話者は一見文末が省略されているかのように見えるこのような発話を用い、その場の状況や相手との関係などに配慮し、話し手の意図を察しながらコミュニケーションを進行させる(朴 2008)。しかし、母語話者と同等の言語背景を備えていない学習者にとって、言いさし表現の習得は難しい(朴 2008,田 2017,葉 2019)。

例えば、迫田(2018)では、調査で行ったロールプレイ(アルバイト先の上司にアルバイトの日数の変更を申し出る)で遭遇した例をあげ、母語話者は、「お願いしたいことがあるんですが…。」のように言いさし表現を使うところ、学習者は「私は二回になりたいです,いいですか?」、「社長,今,いいですか?」のように言い切りを使うため、文法的には間違いではないが、聞き手に不快な印象を与える可能性があると述べている。実際、多言語母語の日本語学習者横断コーパス、I-JAS コーパス(以下、I-JAS)を調査したところ、依頼発話において、以下の(1)(2)の例が見られた。

(1)「週二日に変更していただきたいんですけれども」(I-JAS：JJJ10-RP1)
(2)「バイトは、週二になってもいいですか」(I-JAS：JJC56-RP1)
(2')「バイトは、週二に変わりたいんですけど」

母語話者による用例(1)においては、言いさし表現を使うことによって、不快な印象を避けることができている。中国語を母語とする学習者(以下、学習者)による用例(2)は、文法的な間違いはないものの、この場面においてふさわしくないと言えよう。(2')に示すように、言いさし表現を使用すれば、より丁寧な、ふさわしい表現になる。学習者は言いさし表現の機能について十分に認識していないため、上手く使えないのだろう。このことから、日本語教育では、言いさし表現に関する指導上の不備が存在するのではないかと思われる。言いさし表現を如何に教科書に取り込むべきか、如何なる指導が有効なのかを探るための

第一段階として、学習者がどのくらいの頻度でどのような言いさし表現を使用しているのかという言いさし表現の使用実態を把握する必要があると考える。

2. 先行研究及び研究目的

言いさし表現に関しては、葉(2019)では、日中両言語の母語話者の自然会話を分析資料とし、「共話」と「対話」の観点から両言語の言いさし表現の会話中の役割と機能について考察している。朴(2010)では、KY コーパスと上村コーパスを用い、日本語母語話者と日本語学習者による文末表現の使用状況を調査している。朴(2012)では、「断り発話」に絞って、談話完成テストを使い、異なる人間関係における文末表現の選択に関する調査がなされている。迫田(2018)は、依頼のロールプレイに観察された学習者の表現を分析している。

しかし、以上の先行研究では、言いさし表現の機能(葉 2019)、学習者の言いさし表現の使用・不使用、または使用傾向(朴 2010,2012,迫田 2018)の観察にとどまっている。例えば、朴(2012)では、母語話者は人間関係による「ので」と「から」の使い分けを行なっているが、中国人学習者は、「ので」を「から」に比べて優先的に選択していると指摘している。しかし、言いさし表現の考察が使用頻度・使用傾向にとどまっているのは、十分なのだろうか。白川(2009)では、文脈によって「～から」を使うと、事態を自分勝手に当然視するニュアンス「そりゃ、だって、～だから」というのに近いニュアンスになってしまい、いささか失礼になる場合があることを指摘している。

接続助詞による言いさし表現は、それぞれの特徴があり、学習者が言いさし表現について十分に認識していない場合、その状況に適切でない用法で使用されることが予想される。しかし、学習者が実際にどのように使っているのかを明らかにしない限り、問題点を見過ごす恐れがあり、改善しようもない。そのため、本研究では、I-JAS を利用し、依頼場面における母語話者と学習者の言いさし表現の異同を明らかにしたい。

3. 研究方法

本研究では、依頼場面における母語話者と学習者の言いさし表現の異同を明らかにするために、I-JAS を用いて分析する。その理由としては、母語話者も参加している話し言葉のタスクデータがあり、比較が容易であるためである。具体的には、ロールプレイ 1(アルバイト先の上司にアルバイトの日数の変更を申し出る)を取り上げ、母語話者データ(30 人分)、JFL 学習者データ(海外の教育機関で外国語としての日本語を学ぶ中国語話者 30 人分)と JSL-C 学習者データ(日本に居住し、第二言語としての日本語を教室環境で学ぶ中国語話者 30 人分)を用い、分析する。

迫田他(2020)では、「発話は連続しており、書き起こしの際には文の終わりを決めることは難しい」と指摘している。そのため、I-JAS では、文の終わりを示す「。」を使用せず、ロールプレイでは話者が交替する箇所に改行を入れることで発話の区切りとしている。本研究では、I-JAS の文字化基準に従い、改行箇所を発話の区切りだと考える。I-JAS の RP1 における発話の最後に現れる表現のうち、以下の認定基準に当てはまる表現を言いさし表現の例文として収集する。

① 文を最後まで言い切っていないのにもかかわらず、情報伝達においては完全文と同じ発話機能を果たしている。
② 相手によって中断された文ではない。

4. 調査結果と考察

本節では、まず依頼場面全体における言いさし表現の使用状況について分析する。そして、店長に声をかける「依頼開始部」、依頼を切り出す「依頼本題部」、依頼を受諾してもらう「依頼後半部」の 3 つのパートに分け、それぞれ焦点をあてて分析を行う。依頼場面全体において、「依頼開始部」、「依頼本題部」、「依頼後半部」は以下のようである。

(3)（母語話者データ、K は協力者、C は調査者、相槌は省略、以下同様）

依頼開始部

（前略）

C1:はい、あのＪＪさん何か私に話あるって言ってましたけどー何かどうしました？

K2:あ、ちょっとご相談なんですけれどもー

C3:ああーはい

K4:えー今三日ほどこちらアルバイトで来てるんですがーちょっとー私、がーちょっと忙しくなってきたものでー

C5:あーそうですかーんー

依頼本題部

K6:三日からー、ちょっと二日にーえー減らしていただければと思うんですけれどもー

依頼後半部

C7:ああーそうーなんですか、ちょっとＪＪさん全部、ねー店のことわかってくれてるからー、ちょっと二日にされちゃうとすごい店困っちゃうんですけどーんーいつからー、と思ってますー？

K8:まあ、できれば早いほうがー助かるんですがー

（後略）　（I-JAS：JJJ17-RP1）

4.1 依頼場面全体における言いさし表現の使用状況

表 1 依頼場面全体における言いさし表現の使用状況(回)

調査群 / 項目	日本語母語話者	中国語学習者 JFL	中国語学習者 JSL―C
て	28	3	5
けど類	76	22	24
から	✖	1	1
ので	24	10	5

し	1	✖	✖
その他	✖	✖	✖
合計	129	36	35

依頼場面における言いさし表現の使用頻度については、母語話者と学習者の間に明らかな差があり、学習者より母語話者の方が圧倒的に多く、3倍の差がある(母語話者129回：JFL学習者36回：JSL-C学習者35回)。また、JFL学習者とJSL-C学習者の間に大きな差は見られなかった。

例えば、母語話者は、下記(4)のように、一つの依頼場面において言いさし表現を数回使用する例が確認された。一方、依頼場面において、まったく言いさし表現を使っていないJSL-C学習者は30人のうち、13人にのぼることが注目される。

(4) K(1)：あはい、ちょっとご相談なんですけど
K(2)：(中略) 週三日、あの、入れさして（入れさせて）もらってるんですけど
K(3)：でもできれば、それをこれから週二日に、変更していただきたいんですけど
K(4)：(中略) お願いしたいんと思ってるんですけど
K(5)：それまではあの、私も精一杯やりますけど
K(6)：はい、大丈夫ですので
K(7)：(中略) 協力しますけれど
K(8)：(中略) 週二でお願いしたいと思ってますので(I-JAS:JJJ02-RP1 Cの発話省略)

4.2 「依頼開始部」における言いさし表現の使用実態

「依頼開始部」においては、母語話者では「シフトのことで相談があるんですけど」(JJJ06-RP1)、「お願いがあって、お時間いただきたいなって思ってたんですけど」(JJJ30-RP1)のように、言いさし表現の用例はよく前置きの部分に現れ、増田(2017)によれば、「んです」と「けど」がともに使われることで、複合効果によって働きかけの意図が明確になるという。また、猪崎(2000)では、「お願いがあるんだけど」以下に「聞いてくれますか」とか「いいですか」とかを補うことができ、発話者はこれに対する回答を相手に期待していると指摘している。すなわち、この表現は、「相手に何らかの反応を期待している」表現であり、依頼場面においてふさわしい表現なのではないかと考えられる。

一方、学習者からは以下の例が確認された。

(5)「あの、お願いしたいことがあります」 (I-JAS：JJC23-RP1)
(6)「あの、店長ちょっとお願いがあるんです」 (I-JAS：CCH213-RP1)
(7)「お願いすることがありますが」 (I-JAS：CCH07-RP1)

以上(5)(6)の学習者の発話は、文法的には何ら問題がないものの、話し手の意図を示すには不十分である。「お願いがあるんですけれども」という言いさし表現ほど、聞き手の注

意を喚起したり相手に働きかけたりするという姿勢が明確に感じられない。

さらに、(7)に示すように、学習者は言いさし表現を使用しているが、「んです」を使わない傾向が見られた。この場合、「んです」は必須ではないが、「んです」のような表現は、「相手の注意を引きつける効果を持っており、これなしには表現は相手への一方的な通知または単なる描写となり、相手の関与を期待する表現としては不適切になる」（李・吉田 2002：232）と考えられる。このことから、学習者は朴(2012)の指摘にあるように、日本語教育現場において、「けど」と「んですけど」の区別を明示的に教えられることは少ないことがうかがえる。

4.3 「依頼本題部」における言いさし表現の使用実態

4.3 の「依頼本題部」及び 4.4 の「依頼後半部」の言いさし表現を表 2 に合わせて示す。

表 2「依頼本題部」及び「依頼後半部」における各接続助詞による言いさし（回）

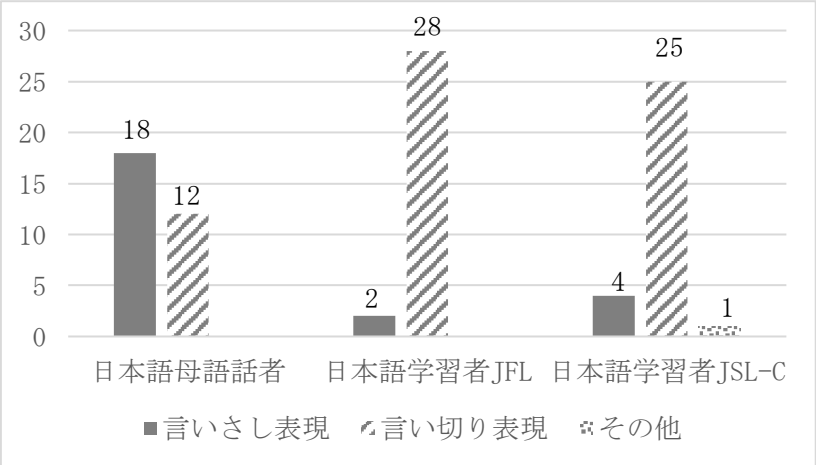
調査群 ＼ 項目	日本語母語話者		中国語学習者 JFL		中国語学習者 JSL―C	
	本題部	後半部	本題部	後半部	本題部	後半部
て	6	16	✖	2	✖	2
けど類	12	49	1	11	4	17
から	✖	✖	✖	1	✖	1
ので	✖	21	1	6	✖	5
し	✖	✖	✖	✖	✖	✖
その他	✖	✖	✖	✖	✖	✖
合計	18	87	2	20	4	25

4.3.1 「依頼本題部」における言いさし表現及び言い切り表現

図 1 に見られるように、母語話者は、「週二回に減らせないかなと思いまして」（JJJ03-RP1)、「週二日にしていただきたいんですけれども」（JJJ10-RP1）などの言いさし表現が多いのに対し、学習者は「週に三回のバイトは週に二回に、なりたいと思っています」(CCH22-RP1)、「一週間二回に変わっても、いいですか」（CCH07-RP1）などの言い切り表現が多い。総数から見れば、大きな差がある（母語話者 18 回：JFL 学習者 2 回：JSL-C 学習者 4 回)。このことから、学習者は、依頼場面で「依頼本題部」を発話する際に、言いさし表現をあまり使わない傾向が観察された。

また、一般的に、学習環境の違いが言語使用に影響すると思われている。しかし、今回の調査では、JFL 学習者と JSL-C 学習者の間に大きな差は見られなかった。今後、学習者の習熟度を配慮した上で、JFL 学習者と JSL-C 学習者の言いさし表現の異同を分析していく。

図１「依頼本題部」における言いさし表現及び言い切り表現の使用状況（各 30 人分）



（研究対象でない回答が１件があるため、その他に入れる。以下の表、図においても同様）

4.3.2 「依頼本題部」における各接続助詞による言いさし表現

本節では、依頼の目的となる「依頼本題部」において、具体的にどのような言いさし表現が現われ、またそれがどのぐらいの頻度で使われているのかを見てみる。また、母語話者は使用するが､学習者にはあまり使用されない言いさし表現があるかどうかを調査する。

表２からわかるように、依頼場面の「依頼本題部」において、母語話者は､「て」及び「けど」類による言いさし表現を多く使用している。一方、学習者は、「けど」類及び「ので」による言いさし表現を使用している。共通点としては､「けど」類による言いさし表現の比率が最も高いことがわかった。

また､「て」による言いさし表現は、母語話者には使用されているが、学習者には使用されていない。例えば、母語話者のデータからは「週二回に減らせないかなと思いまして」（JJJ03-RP1)､「それを週二日に変えてもらえないかなーと思って」(JJJ08-RP1)､「二日に変更できないかなって思って」(JJJ15-RP1）のように､「て」による言いさし表現を使用する例が６例見られたが、学習者からは１例も見られなかった。学習者の不使用は､「て」による言いさし表現に対する理解、また運用できるようになるための指導が不十分である可能性を示している。

一方、学習者が言いさし表現を使用すれば、十分だと言えるだろうか。下記の(8)は母語話者には使用されていないが、学習者には使用されている「ので」による言いさし表現である。

(8) K：あの、最近はちょっと忙しいので、アルバイトの時間を、うー、さんにち（三日）からあー、二、二｛笑｝ににち（二日） に、してもらいたいな（過剰使用）ので

（I-JAS：CCH06-RP1）

依頼行為は被依頼者に負担をかけるものであり、依頼された行為を実行するかどうかは相手の自由意志・判断に関わるわけで､依頼者はこれを相手に強制することはできない（猪

崎 2000)。そのため、依頼場面において、相手にどのように働きかけるかということが問題になる。上記の(8)の「ので」は、物事を客観的に述べる機能が強い(朴 2012)。例えば、依頼場面において、母語話者の「ちょっと、学校とか忙しくなってきちゃったので」という言いさし表現は、「アルバイトの日数を変更する」理由を述べる際にふさわしい表現だと思われる。一方、上記(8)の学習者は「アルバイトの日数を変更してもらいたい」という自分の願望に言いさし表現の「ので」をつけているため、依頼場面においてふさわしくない表現となっている。事実を単に述べているにすぎないからである。このように、学習者は言いさし表現を使用しているものの、適切に使用していない点が見られる。言いさし表現の「ので」は、待遇の面からとらえることが、これまで以上に必要なのではないかと考える。

4.4 「依頼後半部」における各接続助詞による言いさし表現

「依頼後半部」において、母語話者からは言いさし表現の「ので」の使用頻度が目立つ。それは、依頼を受諾してもらうために、理由を述べる際に使われていると思われる。例えば、「ちょっと後期から授業が増えたので」(JJJ14-RP1)、「他のことでもバタバタしてる状態なので」(JJJ13-RP1)、「学校も忙しくなってきて、勉強の時間も確保したいので」(JJJ14-RP1) のように、アルバイトの時間を変更したい理由を述べる際に言いさし表現の「ので」が使われている。一方、学習者からは以下(9)の例が確認された。

(9)C:なんかもうすごいあの、予約がもう立て込んでてースタッフが足りないなーと思って困ったなーと思ってたぐらいなんですけど来週からですかー？困りましたねー
K:他の友達にも頼んでみてみます<u>から</u>

(I-JAS : CCH11-RP1)

(9)のような文脈で言いさし表現の「から」を使うと、「友達に頼んでみるから、もう困らない」という、自分勝手に当然視するニュアンスが生じ、やや失礼になる可能性があると考える。

5. まとめと今後の課題

本研究では学習者における言いさし表現の使用状況の特徴的な点として、使用数の少なさをあげた。また、学習者が産出した言いさし表現は、文法的に問題がない場合でも、不自然なものと判断されることがある。日本語教育現場では、言いさし表現を導入する場合、それぞれの接続助詞による言いさし表現のバリエーション、機能などを十分に配慮していない可能性が考えられる。

今後、これらの問題点に基づいて、日本語教科書での扱い方の傾向と学習者の使用実態との関係、また、それは母語話者の使用実態との異同などについて調査する。それによって、教科書の改善及び指導する際の留意点について提言したい。

参考文献

猪崎保子(2000)「接触場面における『依頼』のストラテジー―日本人とフランス人日本語学習者の場合―」『世界の日本語教育.日本語教育論集』(10),129-145, 国際交流基金日本語国際センター

迫田久美子(2018)「I-JAS の開発と活用：L2 日本語発話と作文の収集―『依頼』のロールプレイに見られる学習者のレベルと母語の影響―」『Learner Corpus Studies in Asia and the World (LCSAW)』(3),75-85, 神戸大学国際コミュニケーションセンター

迫田久美子・石川慎一郎・李在鎬 (2020)『日本語学習者コーパス I-JAS 入門―研究・教育にどう使うか―』 くろしお出版

白川博之(2009)『「言いさし文」の研究』 くろしお出版

高梨信乃(2021)「母語話者レベルの正確さを目指す文法」の意義」『日本語/日本語教育研究』(12),5-20, ココ出版

田昊(2017)「日本語教育文法における『言いさし』の研究」『一橋大学大学院言語社会研究科』 一橋大学博士学位論文

野田尚史(2005)「コミュニケーションのための日本語教育文法の設計図」『コミュニケーションのための日本語教育文法』1-20, くろしお出版

朴仙花(2008)「現代日本語における接続助詞で終わる言いさし表現について―『けど』『から』を中心に―」『言葉と文化』(9),253-270, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本言語文化専攻

――――(2010)「OPI データにみる日本語学習者と日本語母語話者による文末表現の使用―接続助詞で終わる言いさし表現を中心に―」『言葉と文化』(11),217-235, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本言語文化専攻

――――(2012)「中国人日本語学習者による文末表現の使用に関する考察：断り発話を事例として」『言語と文化』(13),95-113, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本言語文化専攻

増田真理子 (2017)「日本語教育における『んですけど。』の扱い」江田すみれ・ 堀恵子 (編.著)『習ったはずなのに使えない文法』65-92, くろしお出版

谷部弘子(1999)「『のっけちゃうからね』から『申しておりますので』まで」『現代日本語研究会編「女性のことば・職場編」』139-154, ひつじ書房

葉郁禮 (2019)「日本語の言いさし文の談話機能 ：『共話』『対話』という観点からみた日中対照研究」 九州大学比較社会文化博士論文

李徳泳・吉田章子(2002)「会話における『んだ+けど』についての一考察」『世界の日本語教育.日本語教育論集』(12),223-237, 国際交流基金日本語国際センター